



## 平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月11日

上場取引所 東大

上場会社名 エスペック株式会社

コード番号 6859 URL <http://www.espec.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石田 雅昭

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 廣 信義

TEL 06-6358-4741

四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日

配当支払開始予定日

平成23年12月9日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	14,306	10.8	569	3.4	636	△6.6	521	△32.8
23年3月期第2四半期	12,916	36.9	550	—	680	—	776	—

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 494百万円 (5.9%) 23年3月期第2四半期 467百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	22.22	—
23年3月期第2四半期	32.70	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第2四半期	36,730	27,840	75.3	1,178.85
23年3月期	37,905	27,580	72.4	1,169.00

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 27,656百万円 23年3月期 27,425百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	5.00	—	10.00	15.00
24年3月期	—	5.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	10.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,500	6.5	1,300	△6.6	1,450	△13.9	1,400	△15.4	59.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
(注)詳細は、添付資料P.4「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

#### (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	23,781,394 株	23年3月期	23,781,394 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	320,902 株	23年3月期	320,872 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	23,460,512 株	23年3月期2Q	23,731,112 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想・配当等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく変動する可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(4) セグメント情報等 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災により甚大な影響を受け、それまで回復基調にあった経済活動は急速に停滞いたしました。後半には、サプライチェーンの復旧により生産活動が予想以上に早く回復してまいりましたが、一方で急激な円高などにより大きな打撃を受けました。また、先行きにつきましても、電力供給問題や円高の長期化、欧米の景気悪化の影響などが懸念され、一段と不透明な状況となりました。

世界経済につきましては、中国をはじめとする新興国の継続的成長に支えられ、景気が緩やかに回復へと向かいましたが、欧州での金融不安の連鎖や新興国の成長減速などにより、停滞が懸念される状況となりました。

当社の主要顧客におきましては、震災の影響による投資計画の見直しや先送りがありましたものの、半導体や電池などの好調市場での積極的な設備投資が依然として継続するとともに、電子部品・電子機器および自動車関連メーカーを中心に開発投資も引き続き堅調に推移してまいりました。

こうした状況の中、当社は、第1四半期に引き続き好調市場において販売拡大に努めるとともに、省エネモデルの新製品を市場へ投入し既存顧客の買い替えを促進いたしました。また、中国などのアジア新興国を中心に営業活動を強化してまいりました。

こうした結果、受注高は前年同四半期連結累計期間比で8.0%増加し16,303百万円、売上高は10.8%増加の14,306百万円となりました。利益面につきましては、固定費の増加などがありましたが、原価率の改善や海外子会社の収益向上などにより、営業利益は前年同四半期連結累計期間比で3.4%増加し569百万円、四半期純利益は32.8%減少し521百万円となりました。

	前第2四半期連結累計期間 (23年3月期) (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (24年3月期) (百万円)	増減率 (%)
受注高	15,101	16,303	8.0
売上高	12,916	14,306	10.8
営業利益	550	569	3.4
経常利益	680	636	△6.6
四半期純利益	776	521	△32.8

### <装置事業>

環境試験器につきましては、国内市場においては、電池関連をはじめとする好調市場や研究開発用途に向けて恒温恒湿室やカスタム機器の販売を強化し、海外市場においては、中国を中心としたアジア新興国において新規顧客の開拓などに注力してまいりました。こうした結果、受注高・売上高ともに前年同四半期連結累計期間比で大幅に増加し、期初計画を上回りました。

半導体関連装置につきましては、前期から好調であった半導体メーカー向けのバーンイン装置が第1四半期までは堅調に推移し、受注高・売上高ともに期初計画を上回りましたが、前年同四半期連結累計期間比では減少しました。

FPD関連装置につきましては、台湾や国内のメーカー向けに小型液晶パネル用のクリーンオープンを受注したことにより、受注高は前年同四半期連結累計期間比で大幅に増加しました。売上高は、受注案件の多くを下期に売上計上する予定であるため、前年同四半期連結累計期間比で減少しました。

エネルギーデバイス装置につきましては、第1四半期は子会社のエスペックテクノ株式会社において二次電池検査装置が堅調に推移しましたが、第2四半期ではエスペック本体で取組む二次電池製造装置が受注に至らず低調に終わったため、受注高・売上高ともに期初計画には届きませんでした。

こうした結果、装置事業全体では、受注高は前年同四半期連結累計期間比で11.6%増加し13,392百万円、売上高は12.6%増加し11,585百万円となりました。営業利益につきましては、売上高の増加や原価率の改善などにより前年同四半期連結累計期間比で18.4%増加し513百万円となりました。

	前第2四半期連結累計期間 (23年3月期) (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (24年3月期) (百万円)	増減率 (%)
受注高	11,996	13,392	11.6
売上高	10,284	11,585	12.6
営業利益	433	513	18.4

<サービス事業>

アフターサービス・エンジニアリングにつきましては、営業部門とサービス部門との連携を強化して既納品の省エネ改作や保守契約を提案してまいりました。受注高は震災の影響などにより前年同四半期連結累計期間比で減少しましたが、売上高は前期受注残もあり増加しました。

受託試験・レンタルにつきましては、主要顧客である自動車関連メーカーからの受注が堅調に推移し、受注高・売上高ともに前年同四半期連結累計期間比で増加しました。

こうした結果、サービス事業全体では、受注高は前年同四半期連結累計期間比で0.4%減少し2,699百万円となりましたものの、売上高は7.1%増加し2,486百万円となりました。営業利益につきましては、売上高の増加などにより前年同四半期連結累計期間比で34.9%増加し198百万円となりました。

	前第2四半期連結累計期間 (23年3月期) (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (24年3月期) (百万円)	増減率 (%)
受注高	2,711	2,699	△0.4
売上高	2,322	2,486	7.1
営業利益	147	198	34.9

<その他事業>

その他事業につきましては、環境エンジニアリング事業では、震災の影響などで官公庁や顧客の予算が凍結されたことにより低調に推移し、受注高・売上高ともに前年同四半期連結累計期間比で減少しました。植物工場事業におきましても、震災の影響などにより受注高・売上高ともに前年同四半期連結累計期間比で減少しました。

その他事業全体では、受注高は前年同四半期連結累計期間比で40.9%減少し273百万円、売上高は23.9%減少し290百万円となりました。利益面につきましては、143百万円の営業損失となりました。

	前第2四半期連結累計期間 (23年3月期) (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (24年3月期) (百万円)	増減率 (%)
受注高	463	273	△40.9
売上高	381	290	△23.9
営業損失 (△)	△32	△143	—

※ 当社グループにおいては、お客さまの予算執行の関係により、契約上の納期が第2・第4四半期連結会計期間に集中する傾向が強いため、四半期別の売上高をベースとする当社グループの業績には著しい季節の変動があります。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における総資産は36,730百万円で、前連結会計年度末と比べ1,175百万円の減少となりました。その主な要因は、現金及び預金の減少649百万円、受取手形及び売掛金の減少2,015百万円、有価証券の増加1,000百万円、仕掛品の増加297百万円、その他流動資産の増加228百万円などによるものであります。また、負債は8,889百万円で前連結会計年度末と比べ1,435百万円の減少となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金の減少1,201百万円、短期借入金の減少198百万円などによるものであります。純資産は27,840百万円で前連結会計年度末と比べ260百万円の増加となり、その主な要因は利益剰余金の増加286百万円などによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の連結業績につきましては、海外関係会社の収益が好調に推移したことなどにより、営業利益・経常利益・四半期純利益ともに前回（平成23年5月13日）発表した予想数値を上回る見込みとなりましたので、平成23年10月28日に第2四半期の連結業績予想を修正いたしました。なお、下期につきましては、円高の状況、海外経済の動向や国内景気の先行き不透明感などの業績変動リスクが懸念されるため、通期の業績予想は据え置いております。

なお、実際の業績等に影響を与える可能性のある重要なリスクは、平成23年3月期決算短信の6ページに記載の「事業等のリスク」から変更ありませんが、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

## 2. サマリー情報（その他）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

前連結会計年度より重要な変更はありません。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,511	7,862
受取手形及び売掛金	12,090	10,074
有価証券	1,300	2,300
商品及び製品	225	331
仕掛品	1,527	1,825
原材料及び貯蔵品	1,039	1,006
その他	1,982	2,211
貸倒引当金	△11	△10
流動資産合計	26,666	25,601
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,166	3,146
土地	4,413	4,412
その他（純額）	650	694
有形固定資産合計	8,230	8,253
無形固定資産	285	253
投資その他の資産	2,723	2,621
固定資産合計	11,239	11,128
資産合計	37,905	36,730
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,654	4,452
短期借入金	210	11
未払法人税等	62	67
賞与引当金	366	360
役員賞与引当金	7	3
製品保証引当金	188	151
その他	2,046	2,080
流動負債合計	8,535	7,126
固定負債		
長期借入金	168	161
退職給付引当金	42	27
役員退職慰労引当金	44	44
資産除去債務	49	50
その他	1,484	1,478
固定負債合計	1,789	1,762
負債合計	10,325	8,889

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,895	6,895
資本剰余金	7,172	7,172
利益剰余金	15,294	15,580
自己株式	△202	△202
株主資本合計	29,160	29,446
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	166	103
繰延ヘッジ損益	△5	△4
土地再評価差額金	△828	△828
為替換算調整勘定	△1,067	△1,060
その他の包括利益累計額合計	△1,734	△1,790
少数株主持分	155	184
純資産合計	27,580	27,840
負債純資産合計	37,905	36,730



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	12,916	14,306
売上原価	8,792	9,529
売上総利益	4,124	4,776
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	1,007	1,167
賞与引当金繰入額	60	108
製品保証引当金繰入額	64	111
貸倒引当金繰入額	0	—
役員賞与引当金繰入額	1	3
その他	2,439	2,816
販売費及び一般管理費合計	3,574	4,207
営業利益	550	569
営業外収益		
受取利息	14	9
受取配当金	28	30
有価証券売却益	0	2
負ののれん償却額	15	—
持分法による投資利益	69	85
その他	56	39
営業外収益合計	184	168
営業外費用		
支払利息	6	5
有価証券売却損	2	4
為替差損	34	81
その他	10	10
営業外費用合計	54	101
経常利益	680	636
特別利益		
固定資産売却益	—	0
投資有価証券売却益	38	20
特別利益合計	38	20
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	2	8
投資有価証券評価損	23	81
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	36	—
その他	0	—
特別損失合計	62	90
税金等調整前四半期純利益	656	566
法人税、住民税及び事業税	△122	17
少数株主損益調整前四半期純利益	779	549
少数株主利益	3	27
四半期純利益	776	521

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	779	549
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△174	△62
繰延ヘッジ損益	△3	0
為替換算調整勘定	△113	4
持分法適用会社に対する持分相当額	△20	3
その他の包括利益合計	△312	△54
四半期包括利益	467	494
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	470	465
少数株主に係る四半期包括利益	△2	29

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	装置事業	サービス 事業	その他事業			
売上高						
外部顧客への売上高	10,284	2,257	373	12,916	—	12,916
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	64	7	71	△71	—
計	10,284	2,322	381	12,988	△71	12,916
セグメント利益又は セグメント損失(△)	433	147	△32	548	1	550

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	装置事業	サービス 事業	その他事業			
売上高						
外部顧客への売上高	11,585	2,432	288	14,306	—	14,306
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	53	1	55	△55	—
計	11,585	2,486	290	14,361	△55	14,306
セグメント利益又は セグメント損失(△)	513	198	△143	569	△0	569

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。